

# 大阿仁公民館だより

第81号

発行 令和元年（2019年）11月1日

発行責任者 斎藤 英昭

TEL 0186-84-2311（大阿仁出張所）

## 鳥坂の祭典 秋晴れに開催

10月6日、秋晴れの下で、鳥坂稻荷神社の祭典が挙行されました。

鳥坂は大阿仁地区の一番西にあり、昔は中学校や村役場もありました。今は8軒の集落です。

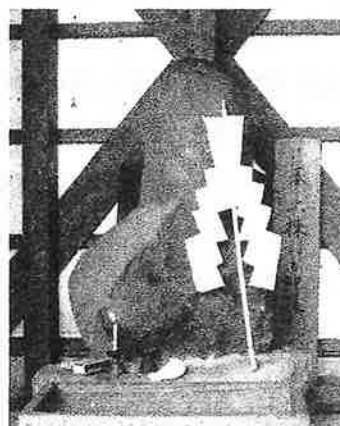
鳥坂稻荷神社には、竜神様と水神様が祀られています。竜神様は木像で、蛇の上に乗っています。水神様は、石がご神体とのことです。

また、旧道の鳥坂橋のたもとに、「いもがみ様」を祀ったほこらがあり、大きな石が祀られています。これは昔、志渡与五左衛門という人が川のそばに立ったとき、「よござえもん、今来たか」という声とともに、大きな石が川から上に上がって来たそうです。

鳥坂地区は、阿仁川も、合流する鳥坂川も、高い崖の下を流れていて、河岸段丘の上の狭い平地に集落があることから、橋渡しや水の確保が課題だったので、竜神、水神を祀ってきたのだと思います。一つひとつの集落に、人々の歴史が伝えられています。



竜神様の木像



いも神様

## 大阿仁ミニ・フォーラム「移住者を迎える北秋田市と大阿仁の課題」

貸してくれる 譲ってもらえる家を 移住者への公的支援の拡大を



移住するときの体験を語る阿仁合の長谷川拓郎さん(左)  
中は市の移住担当の米倉さん、右は中村の益田光さん。

9月29日に、第2回大阿仁ミニ・フォーラムが開かれ、12人が参加しました。

報告者は、5年前に阿仁合に移住してきた長谷川拓郎さん（阿仁合コミュニケーション）と、今年、中村に移住した益田光さん。市からは、移住定住支援室の佐藤孝一室長（幸屋）、地域おこし協力隊で移住コーディネーターの米倉信人さんが、市の取り組みなどを報告しました。

長谷川さんは、5年前に移住してきたときに、家を探すのにたいへん苦労しました。

空き家になった家を解体するには多額の費用が掛かり、むしろ、無償で譲ったほうが安上がりだということをもっと広めたほうがいい。また、空き家情報があれば、住みたい若い人は結構いる、もっと情報を広めてほしいと話しました。



佐藤孝一さんは、人口減少の実態と、市の移住促進の取り組みを報告しました。

昨年度、市に移住希望を登録して実際に移住してきた人は、28世帯41人。20代が半数です。（このほかに、個人的に転居してきた人もいると思います。）

阿仁地区は、鷹巣地区の次に移住者数が多く、東京で移住イベントに参加する人でも、阿仁地区を希望する人が多いそうです。

市では、これまで单身だと入居できなかった比立内の市営住宅を、一人でも入居できるように変更したとのこと。これは大きな前進です。大阿仁地区に住みたい人が、まず市営住宅に入り、生活をしながら、将来住む家を探することができます。

市には「空き家バンク」の制度がありますが、阿仁地区は登録された空き家がありません。



# 新しい時代 21人の思いやりと力で

## 未来に向かって一直線！

### 大阿仁フェスタ2019 元気に開催！

10月13日（日）、台風で開催が心配された大阿仁フェスタが、台風がそれて去った好天の下で元気に開催されました。会場には100人近い人たちが集まり、地域の祭典を楽しみました。ありがとうございました。

小学生、保育園児、中学生、先生、保護者、地域の皆さんが一堂に会してのフェスタ、今年も大好評でした。準備、運営に当たった皆さん、たいへんお疲れさまでした。

会場からは大きな拍手が



きれいな歌声だった全校合唱



保育園のおゆうぎ「お祭り忍者」



3・4年生の「天気の子 3・4年バージョン」



中学生もいっしょに、すてきな歌声を響かせました。  
PTA会員による歌は、「ふるさと (by 嵐)」と、秋田県民歌でした。

比靖会の皆さんの駒踊り。踊り手は6年生と中学生でした。



婦人会による「阿仁音頭」と「交通安全音頭」



場内放送も子どもたちが担当。

5・6年生の英語劇「うらしま たろう」は、本当にセリフが英語で、子どもたちの演技に会場は大喜びでした。



子どもたちの作品も展示されました



## 「北秋田郡大阿仁村発達史」を読んで（6）

大穂耕一郎

### <大滝丸の伝説>

森吉山の石森から一ノ腰への道にある森吉神社のご神体は、大きな四角い冠岩です。この岩には、平安時代の807年（万事万三郎の活躍の半世紀前）に、坂上田村麻呂に追われた大滝丸という蝦夷（えみし）の首領が積み上げたという伝説があります。

「大阿仁村発達史」には、「坂上田村麻呂 阿仁三陵沢（今の阿仁合の三両沢か？）に蟠居（ばんきよ・根を張って動かないこと）し地方を騒がせる蝦夷の酋長大滝丸を討伐し、立願の為森吉山に薬師堂を建立した」と書かれています。

しかし、坂上田村麻呂が阿仁に来たという史実は不明ですが、大滝丸にまつわる伝説は東北各地にあり、悪路王（あくろおう）とともに、朝廷に従わなかった蝦夷の首領として語り継がれてきたのでしょう。

「大阿仁村発達史」によると、明治時代の地理学者・吉田東伍（とうご）が編集した「地名辞書」には、811年に書かれた記録「弘仁紀」に、「おろしゅい」として登場する村は大阿仁の前身「荒瀬」だと書かれているそうです。

また、878年（ちょうど万事万三郎が秋田に来たころ）、秋田城主の悪政に対して蜂起した蝦夷の村（当時、県北はほぼ蝦夷の地だった）12村に、「上津野（かづの）、火内（ひない）、楡淵（すぎぶち）、……」とあります。楡淵は鷹巣から阿仁一帯の呼び名なので、このあたりは蝦夷の人たちが住んでいたことがわかります。

### <移り住んだ人たち>

時は少し下がり、源平の戦い、平泉の滅亡という大きな出来事は、人々の動きも生み出しました。源義経の家来だった佐藤継信（つぐのぶ）の子孫が、平泉で義経が討たれた（1189年）あと、流浪の末に、阿仁の根子に住み着いたとのこと（根子の佐藤哲也さんのお話）

「発達史」には、戸島内の柴田作右衛門家は羽柴秀吉に討たれた柴田勝家の縁者、高木家は大坂の陣のあと、阿仁合の住人となり、明治の初めに比立内に来たと書かれています。

戦国時代の大阿仁村（当時は「荒瀬村」）は、小淵城主高岡氏の領地で、小淵に肝煎（きもいり）がいました。江戸時代の元禄11年（1698年）に小淵から独立して、荒瀬六右衛門という人が、荒瀬村初代の肝煎だそうです。

阿仁鉱山は鎌倉時代の1308年に金山が見つかり、1380年には向山銀山が、1521年には板木沢鉱山が開かれました。

江戸時代に入った1637年に高岡八右衛門が小沢鉱山を発見、以後、「阿仁六ヶ山」として繁栄しました。大阿仁地区は、鉱山への米を仙北から大覚野峠を越えて運ぶ中継地となり、また、鉱山で使う木材や、薪炭の生産と輸送もあって、村民を潤したそうです。

今回は、江戸時代の大阿仁の記述を紹介します。